

広島別院だより

Vol.26
夏号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

非核非戦法会兼原爆死者追悼会

七月六日、非核非戦法会が勤められました。昨年は西日本豪雨災害のため中止となりましたが、再び古田和弘先生（九州大谷短期大学名誉学長）にご依頼の上お迎えし、講演をしていただきました。以下、抄録です。

●軍国少年から反戦運動へ

人間は自分の錯覚した見方から正義を考える。それは我執である。そこから非核非戦を訴えても、それは我執である。

少年時代、お国のために命を捨てるのが正義と思っていたが、敗戦により私の思いは挫折した。終戦後、高校生だった私は反戦運動に関わり、それは、やがて反政府運動となっていった。それが正義だと信じていた。しかし、心の中で何か違和感を覚えていた。

●すべては自己満足だった

静かに自分の心を見つめてみれば、自分の活動は自分の正義感を満たすためのものでしかない気がした。我執で自分の正義を振りかざすなら、結局、正義を掲げて戦争をする者と質は変わらないのである。

●仏の教えに聞く他はなし

無量寿経の「国豊民安、兵戈無用」（国は豊かで、民は安らぎ、兵器は無用）という教えは、世界中の指導者の理想である。しかし、「仏所遊履」（仏の教化される所では）の語を欠けば結局、我執である。私たち我執に生きる者はただ素直に仏の教えをいただくべきであると親鸞聖人は教えられた。



講師：古田和弘 師

●群生海と本願海

戦争で殺し合いをする人間の世界を群生海という。そんな私たちを憐れみ助けようとする世界を（阿弥陀仏の）本願海という。実は私たち群生はすでにいのちを育む本願海の中に生かされていたのである。つまり、群生海とは阿弥陀仏の本願のはたらく世界だったのである。

大切なことは本願のはたらきに気づくかどうかである。その本願の教えを素直にいただく他に道は無い。その道こそが、敵も味方も、原爆を落としたりした方も落とされた方も、共に助かる唯一の道である。

〳〵お寺の活動いろいろ〳〵 Fブロック同朋大会(芸備組・安芸南組・安芸北組)

五月二十五日Fブロック同朋大会が、みよしまちづくりセンター（三次市）で開催され、三カ組の同朋一九〇名が集いました。講師は伊藤元先生（北九州市、徳蓮寺前住職）。テーマは「なぜ、仏法を聞かなければならないのか」。珠玉の言葉をたくさん頂くことができました。「自分にいま与えられている色々な恩恵は失った時ではないとその有難さがわからない」「仏法は、この世は雑会（様々な事柄と出会うところ）だ」と教えている。どういふことに出会うかは、こちらからは選べない。

しかし、出会ったことに向き合うかは自分が選べる。起こったことをどう受け止めるかがその人の人生を決める。

真宗の重要な教えを押さえながらも笑いを誘う軽妙で楽しい伊藤先生の話に、会場の皆は熱心に耳を傾けました。



講師：伊藤 元 師

真宗基礎講座

（第五回）

六月二十九日、真宗基礎講座が開催されました。講師の三明智彰先生（九州大谷短期大学学長）は、救世観音の夢告に導かれた親鸞聖人と法然上人との出会いについて話されました。次回から第2シーズンが開講します。テーマは引き続き「親鸞の生き方にたずねて」です。皆様、ぜひともご参加ください。



講師：三明 智彰 師

広島別院団体参拝

左記の団体が団体参拝されました。お参りいただき、誠に有難うございました。

四月二十五日

安芸北組最勝寺門徒会 様

五月三十日

大阪教区第七組淀川北班 様

五月三十一日

四国教区東讃第一組

常善寺婦人会 様

お寺のハテナ？ 『お墓』



子どもに迷惑をかけたくないと、海に散骨を希望する方が増えているそうです。しかし、残された家族は亡くなった人を偲びたい気持ちを持つものです。散骨をした人の中には、散骨した場所まで船で行き、海に向かって手を合わせる人もいと聞きます。

墓じまいという言葉が流行っています。絶えた家のお墓を撤去することはやむを得ませんが、子どもに負担をかけたくないのです。お墓を処分する人がいます。お墓があることはそんなに負担なのでしょうか。

お釈迦様が亡くなると火葬にし、遺骨（仏舍利）は八つ割の国・部族に分けられました。それぞれが仏塔を造り、遺骨や遺灰を安置しました。つまり、これらの仏塔はお釈迦様のお墓です。その後、アショーカ王は仏塔を壊して遺骨を八万四千に分け、各地に遺骨を納める仏塔を建てたと言われています。

お骨だけでなく、歯、爪、髪の毛などを納めた仏塔も数多く造られています。それら仏舍利などが納められた仏塔に多くの人がお参りしてお釈迦様を偲び、お釈迦様の言葉（お経）が伝えられていったのです。

【続きは次号で】



法座・講座等のお知らせ

8月24日(土) 真宗基礎講座

—親鸞の生き方にたずねて—
(第2シーズン)

【講師】 三明智彰 先生 (九州大谷短期大学学長)
 【日程】 毎回 13:30～16:00 【会費】 500円
 【会期】 10/12(土)、12/7(土)、2020/2/22(土)

〈親鸞聖人のご生涯をたずね、浄土真宗の教えの基礎を学ぶ講座です〉



9月24日(火) 秋彼岸会

【講師】 宍戸大観 先生 (安芸区 龍善寺住職)
 【日程】 14:00～勤行
 15:00～法話 16:00 終了予定



〈彼岸とはさとりの世界。太陽が真西に沈むお彼岸は阿弥陀仏の西方浄土を想い、
教を聞く最適の時節とされてきました。お誘いあわせのうえ、ご参詣ください〉

毎月5日 定例法話 (ご今日の集い)

【講師】 県内僧侶(月替わり) 【日程】 14:00～勤行と法話(15:00 終了予定)
 〈広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。〉

道場樹

【編集室より】

東京では冷夏となり、野菜が育たないと言われている一方、広島では本当に梅雨かというくらい雨が降っています。「このままだと水不足が心配だ」と門徒さんと話しをしています。しかし、昨年大雨は甚大な被害が出て、もう勘弁してほしいと思ったものです。

雨が降れば愚痴をこぼし、降らねば、また愚痴をこぼしています。雨は自然の大きな循環の中で起こっています。私がついていける訳ではありません。それでも「あんなれば・・・、こうなれば・・・と、自分の思いの及ばないところ、気をもんでいます。

天気だけでなく、日常の様々なことについても、同じように自分の及ばないことについて悩んでいます。悩みはつきませんが、せめてこの悩みは雨のようなものだと思えば嬉しいです。
(T・N)

業務休止のお知らせ

8月14日(水)から8月18日(日)までの5日間、業務を休止いたします。
 ご不便をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願致します。